

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やみね
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐世保市矢峰町82-1
記入者名 (管理者)	山下 千代子
記入日	平成 21年 1月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と共に町内と関わりを持ち、利用者一人ひとりの人格・個性を尊重し笑顔の絶えない毎日を住み慣れた地域で自分らしく、そして安心して生活する支援をする事を平成16年開設時に作り上げた。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで基本理念を唱和し、常に理念を意識したケア実施に向けて努力している。月2回のケア会議で話し合いを行いその人らしい支援方法やケアプランを共有している。	○	日々の個別ケアにつなげていく努力をする。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行しているホーム便りにホームの基本理念や役割を記載したり、運営推進会議によって地域の人々にも浸透する様にしている。、又、町内の行事等には出来る限り参加する様にしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	顔を見かけたらすすんで挨拶する様に努めている。特に隣近所の人、行事等で顔見知りになった人にはすすんで挨拶をする様に努めている。町内の付き合いを大切にし、回覧などもスタッフが交代で行い顔見知りを増やす様に努力している。	○	ホームの行事や庭園の桜やつつじの満開時には、案内をホームの壁に貼り、気軽に立ち寄ってもらえる様にしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、地域の祭りや行事の案内状を頂いている。地域の祭りには、作品を展示させていただき地元の人々と交流する様に努めている。		町内の清掃の参加、祭り等の参加で地域に解けこみ交流を図る努力をしているが、他の活動にも参加したい。

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>事業所の庭園を清掃し、四季おりおりの花が敷地の外からも眺められる様にし、訪問しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。地域の老人会、町内役員会に夏祭りの案内をしている。</p>	○	<p>介護教室を取り入れたい。外庭の桜の花見、ボランティア活動への声かけ</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価や外部評価を実施する意義を全職員に説明し、自己評価をする事によって、今までのケアを見直しより良いホーム作りに取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回定期的に会議を行っており、出席者からの意見や要望をサービスにいかす様に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>会議以外でも、市町村への相談や市が主催する研修等に参加し、市との連絡を取り合っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者を主に支援をしている。地域福祉権利擁護事業を利用している入居者もいる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や職員は順次研修を受け、知識を深めて防止に努めている。申し送り時やミーティングで、管理者より防止の徹底が促されている。</p>		

グループホームやみね

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明書をもとに、退居時の件も説明し理解を得た上で、手続きを行っている。	○ より理解を得る為に、見やすい位置に掲示している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けると共に、意見箱を設置し、運営推進委員会参加の家族に意見や要望を尋ねている。会議には、利用者代表も参加している。	○ ①見やすい場所へ意見箱を設置し、ささいな事でも気付いた事があれば入れてくださいと声かけしている。②意見・苦情が出た場合は、速やかに検討し対応するように心がけている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理については、来所時に個人の介護記録や金銭出納帳に目を通して頂き、サインをもらっている。職員の異動についても運営推進会議で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、行事その他、家族来所時にはできるだけ面談を行うように努めている。意見を頂いた場合は、会議等で検討し運営に反映させるように努力している。	○ 推進会議や家族会でも意見や苦情がないか尋ねると共に、何でも話せる雰囲気作りを今後とも続けたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から各自に声かけしている。また、ミーティング時に問いかけ、意見等を聞くようにしている。	○ 親睦会等で交流を深めていき、意見や要望も出せる端にしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じ、職員の配置を組んでいる。定期受診、入浴等に応じ職員の増員をしている。	○ 状況に応じての配置を崩さないよう継続していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員で対応できるように、最小限に抑える努力をしている。	

グループホームやみね

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月届く研修の資料を提供し、一人ひとりのレベルにあった研修への参加を呼びかけている。研修を受けた者は、ミーティングなどで発表する機会を設け、各自のレベルアップを図り、仕事に反映させている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会、ケアマネ会やその他研修会等でのグループホームの職員と交流を図ったり、ホームの行事には案内状を送り交流をしている。お互いに情報交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>○ 地域の同業者との交流を図る機会を増やしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>話しやすい雰囲気作りに努め、職員への声かけを行っている。</p>	<p>○ 親睦会の機会を増やしていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>参考書の斡旋や研修会出席への声かけをして向上心を高めている。</p>	<p>○ 色々の研修会へ積極的に参加しケアの統一を図り、ホーム全体のサービスの向上につながるようにしたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームの見学や電話での問い合わせには、積極的に応じ、来所しやすい状況を作っている。相談から利用に至るまでに、良く傾聴し、共感し、受容し信頼関係を築く為に努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居される前の相談では、家族が困っている事等を良く傾聴し受け止める努力をしている。</p>	

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームのサービス内容の説明や介護の方法の説明を行っている。ほかに色々のグループホーム以外のサービスの説明をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と連絡を密にし、不安の除去、仲間づくりの支援や何らかの役割を持ってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で物の大切さ、平和の大事さ、命の尊さ等を学んでいる。掃除・洗濯・台所等を一緒に行う事で、良り親密になり支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で物の大切さ、平和の大事さ、命の尊さなどを学んでいる。掃除や台所を一緒に行って支え合っている。	○	昨年、家族会を設立したことにより、情報交換をさらに充実させていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係を大切にホームの行事には、仲良く同席できる場を提供している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、お茶の提供や声かけで明るい雰囲気作りに励み、再来したいと思ってもらうように努力している。本人が、希望する所には外出できるように家族への声かけや職員の勤務体制を整えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の仲よし関係や、能力・体力を把握して小グループやユニット全体それぞれに見合ったレクリエーションの提供や、日常生活の中の掃除や洗濯などお互いが協力して生活できる様に職員は、気を配り支援している。		

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所(病気・死亡・転居)された後にも、電話や便りで安否を尋ねたり、ホームの行事には来所声かけをしている。	○	夏まつりには参加を頂いている。今後もこの関係を続けられる努力を行い、又入居施設への訪問を続けていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表及び日常の生活の中から、本人の生活や好み、家族の生活状況を把握し、その人らしい暮らしの支援に向け職員全体で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後の面談で、本人や家族からの情報提供や前施設からの情報収集等から一人ひとりの生活歴や暮らし方、生活環境をアセスメントし、把握に努めている。	○	アセスメントの充実を図り、より良いケアに努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の介護の中での観察等から、その人の現状にあった接し方法を総合的に把握し、職員間でもお互い情報を共有し安心な暮らしの支援に努めている。	○	職員の観察力をより深めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の介護の中で、職員間の意見交換(朝・夕の申し送り、月2階のミーティング等)や家族、本人からの希望を聞き取り楽しんで、目的を持って生活できるような介護計画を目指して努力している。	○	日々の観察や対応の中で、気付いた事等についてその都度話し合いを蜜に行い、関係者と連携しより現実性のあるプランにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間満了時には、職員間や関係者を交えてモニタリングを行い、話し合い検討し、見直し等現状に合った新たな計画を作成すると共に、病状の悪化、機能の低下などの時にもお互い話し合いをもちプラン変更をしている。	○	プランを充実を図りたい。

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録は、誰が見てもわかる様な書き方をしており、ケアの実践、結果、気づき工夫等も特記事項欄を利用し、情報を共有しながらケアに努め介護計画の見直しに活かしている。	○	介護の充実を図りながら、現状を書き漏らさないような記録の簡潔化に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に合わせかかりつけ医への受診介助や美容院、買い物等に付き添い満足な生活を送れる様に支援している。又作業療法士を月2回依頼し、リハビリにも取り組んでいる。地域のボランティアによるレクリエーションも実践している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議を通じて、民生委員や町内の役員とのつながりが深まり町内のレクリエーション、祭り、大会への参加等地域連携を図り支援している。	○	地域と連携を図り、今以上に交流を深めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所前後には、居宅ケアマネや他施設ケアマネと話し合い、本人が満足できる様なサービスが受けれる様に支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	独居者の財産管理、金銭管理等を地域包括支援センター(高齢者安心センター)と協力している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じて、適切な受診を行っている。(内科、精神科、脳神経外科、歯科、眼科ほか)		

グループホームやみね

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>職員は尊敬の念を持って接しており、自尊心、羞恥心、人格個性を尊重し、配慮すると共に、記録や情報が第三者に漏れないよう気をつけている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>日々の介護の中で、コミュニケーションを大切に本人の思いや希望が素直に表に出せる様に、ゆとりある態度で接している。意思表示が難しい人には、表情や反応でくみとり、職員間で話し合い本人の希望に近づく様努力している。</p>	○	<p>箸やスプーンがもてななくても、自分で選び手でつかんでも口に運ぶ事ができる様にエプロンや手拭、食器のセッティング等行い、利用者間にも不快感を与えない様な声かけや支援に取り組んでいる。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>業務を優先することなく一人ひとりのペースに合わせ、毎日充実した生活になる様に支援している。</p>	○	<p>網物や読書、パズルが好きな利用者には買出しの支援をしている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>2回/月 美容師の来訪にてカットしてもらい、行きつけの美容院を希望される方には家族や職員で送迎対応している。</p>	○	<p>パーマ、染め等を希望される時には、送迎して美容院に向く等一人ひとりの個性を大切にしたお洒落や身だしなみを支援している。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>季節感を味わえる料理を工夫し、新鮮な食材で好みを考慮しながらメニューを利用者と一緒に考え買い物にも、時々同行してもらっている。食器の片付けや準備は職員が間に入り、楽しくできている。</p>	○	<p>各テーブルの中に職員が座り、楽しく食事が摂れる様な雰囲気作りを行っている。時々、おやつを作ったり皮むきや根切り、味見等で今までの能力を継続できる支援をしている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>昔よく食べた物や現在食べたいものの希望を聞き、おやつやデザートに取り入れている。</p>	○	<p>タバコがやめられない利用者には、喫煙室にて職員が付き添い安全、安心して扱える様に対応している。時々、好みの食物の希望を聞き取り、おやつ作りやデザートに活用している。</p>

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	便秘予防の為に食物や飲水、運動・マッサージ等を取り入れたり、チェックシートを活用して排泄パターンを把握している。(オムツ使用を少なくする工夫をしている)プライバシーに配慮しながら、トイレ誘導を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットの入浴日を決めてはいるが、曜日をずらし毎日でも入浴できるように支援している。入浴順番や時間は利用者の希望に出来るだけ合わせる様にしている。又入浴されない人には、清拭や足浴、シャワー浴等で対応している。同姓介助を原則としている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムの確保の為に、日中は離床と昼寝を組み合わせ、体操や散歩をしたり等で体を動かし気持ち良く安眠できるように支援している。	○	昼夜逆転の人には、自然に過せるように声かけをしている。(テレビはイヤホン使用、室内灯は本人の意思に任せている。)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味への支援をこころ掛け、張り合いや喜びのある日々を過ごせる様に、一人ひとりの楽しみを把握している。(編み物、パズル、囲碁、将棋、花札、トランプ、歌)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方は本人に持って頂いており大切に使われている。管理が無理な人には、ホーム事務所預かりとして希望時必要な物はいつでも購入できるようにしている。	○	買い物同行しお小遣い程度の金額のサイフを持って頂き、好きな品物の購入やレジでの支払いを各自でしてもらうように支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調等を考慮し、数人で近所の公園や神社への散歩、ホーム駐車場、買い物同行等をしている。歩行不安定な人はドライブで外の空気を吸える様にしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員又は数人でドライブ、買い物、お参り、食事等の支援をしている。家族とも連携を取り合い、家族と一緒に外出できる機会が増える様に支援している。	○	定期的に家族と食事、買い物に出かける方もおられます。

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を持っている人もおり、自由に利用している。事務所でも本人希望時、即対応できる様にしている。手紙は届いたら本人にすぐ渡すようにしている。手紙を書く為の便箋やはがき、切手等の提供、投函の支援もしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できる体制を整え、訪問者にはご本人と一緒にお茶を勧め、居心地よく過して頂ける雰囲気作りに取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所にマニュアルを置き、いつでも職員は見れる様にしている。毎年交代で研修会にも出席し報告会を開き理解を深めるとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しており、居室の鍵は設けていない。危険防止の為、ホールの一部分に時間帯によっては鍵を使用することもある。	○	職員が気がつかない内に外出する方もおられるので、日頃から近所の人とも挨拶等で交流を密にし、協力をお願いしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りや声掛けでプライバシーに配慮しながら、常に職員は気配り、目配りを忘れず、状況を共有し安全に生活できる様に支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況に応じて、居室に置いたり事務所で預かったりと状況に合わせて支援している。必要時は職員が同席し危なくない範囲を把握して自由に使って頂いている。(針・はさみ・ライター・カミソリ・果物ナイフなど)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食膳の嚥下体操、タバコの管理、服薬管理、レク体操、外出支援など、その人に合った介護方法をミーティング等で習得し実践している。		

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを事務所に設置し、いつでも見れる様にしている。又消防署の指導を受け応急手当の方法を学んだり、研修会にも交代で参加する様にしている。	○	救急処置や吸引器の使用などを全員ができる様に勉強していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練を行い、避難方法を身につけるようにしている。又運営推進会議を通して、町内や役員や近所とのつながりを大切にして協力が得られるように働きかけている。	○	非常食の準備や日常生活上の最少物品の準備等を考えている。町内の人々に参加してもらい訓練を予定している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	必要時には、電話や面談等で現在の状況及び今後起こりうるリスクについての説明や相談をし対応などを協同で話し合っている。説明内容は記録に残し、職員全員が把握し対応できる様にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック及び観察で異常の発見に努め、体調の変化に気付いたときには職員間での情報を収集し、管理者及び看護師、主治医と連絡を取り合い対応している。家族にもすぐに連絡を取る様に支援している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬一覧表を見やすい場所に貼り、看護師がセットしている。内容は薬剤情報書や「薬の本」で把握できている。服薬時には、誤薬がない様に複数の職員で観察を取り合い与薬している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に食物繊維、野菜を多く取り入れており、自然排便ができる様に献立や飲水、運動にも力を入れている。毎日、体操や散歩、歩行訓練等その人に応じた支援をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立している者には、一人ひとりの今までの習慣に合った方法でうがい等の口腔ケアを実施している。介助が必要な人には、職員が口腔内の清潔保持に努めている。	○	毎食後口腔ケアをされていない方についてはうがいだけでも行う様に声かけし清潔保持ができる様にしたい。

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量がひと目でわかる様に用紙を用いて一覧表にしている。嫌いな食べ物のときには量を減らしたり、他の一品を加えて偏りを少なくしてバランスの良い食事ができる様に献立を考えている。	○	献立は、入居者の希望も取り入れ管理者と相談して作っている。体調に合わせて食べ、安い様に調理方法を考えている。体重、体格、性別、活動量を考慮しながら調節している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに添った対応、予防を実施している。常に手洗いやうがいや声かけや見守りで実行している。発生時には、早期に受診し、感染を広げない様にしたり、勉強会を開き対応等を検討している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は毎日床まで念入りに掃除を行い清潔に努めている。台所に入る時は手洗いやうがいをしエプロンを替えたり、はずしたりして、予防に努めている。調理器具は用途に合わせて、熱湯やハイター、乾燥機等を使用している。食材はほぼ毎日買い物し新鮮で安全なものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や駐車場を広くしており、入口付近は花やベンチを置き誰でも安心して出入りしやすい環境を作っている。建物裏には庭園があり、四季折々の草花を植え家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。	○	桜の時期には町内への声かけや張り紙をし誰でも見物で切るようにしている。お茶の提供もしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンを2重にし音や光を調節している。臭いや空気の澱みがない様に随時、換気扇を作動させ、必要な窓の開閉をしている。テレビの音量はさりげなく調節し不快感をあたえない様にしている。季節の花を飾ったり絵や手作りカレンダーを毎月張替え居心地よく過ごせるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや座椅子、テーブルをホールや廊下に置き、仲よい利用者同士で思い思いに自由に過ぎて頂ける様に工夫している。		

グループホームやみね

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や情緒不安定な時は家族に理由を説明し、使い慣れた物や好みの物を持参してもらい、自宅で過すのと同じ環境の中で居心地よく過して頂ける様に個性のある居室作りをしている。(仏壇・神棚・鏡台・健康器具・位牌)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室や共有空間は常に換気扇は作動させ、臭いや空気の澱みがない様に工夫し、朝は窓を開け空気を入れかえをしている。居室内の湿度調節は温湿度計やホールにも温湿度計を設置している。	○	換気や空調の配慮の為、月1回の掃除フィルター交換を常に清潔に心がけている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室には手すりを設置し、一人でも不安なく安全に歩行できる様に工夫している。台所は区切り(ドア)をつけず、自由に入出りできしようにしているが、包丁類は保管場所を決め安全を確保している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の能力を見極め、自立に向けて支援している。(茶碗洗い、洗濯物たたみ・干し、掃除等) 混乱や失敗があったり予測される時は職員が中に入り声かけや見守りを行っている。	○	その人に合った役割を見つけて自立できる様に支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホールから直接外に出られる様にウッドデッキを設け、庭園に出たり日光浴ができる様にしている。玄関周りには、プランターやベンチを置き、水やりと花の手入れを楽しんでいる。駐車場を歩行訓練に使用し楽しみながらリハビリを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	ほぼ全ての利用者の
		②	利用者の2/3くらいの
		③	利用者の1/3くらいの
		④	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	毎日ある
		②	数日に1回程度ある
		③	たまにある
		④	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①	ほぼ全ての家族と
		②	家族の2/3くらいと
		③	家族の1/3くらいと
		④	ほとんどできていない

グループホームやみね

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)